

## 「院内糖尿病サポートマニュアル」 序文

佐久市立国保浅間総合病院 糖尿病センター長 仲 元司

古くて新しい薬インスリンの使い方について解説した「院内インスリン使用マニュアル」が初めて作成されたのは2011年でした。さらにインスリンとは異なる注射薬であるGLP1受容体作動薬が上市され、それを含めた改訂版マニュアルが2013年に完成しました。

その後も糖尿病の領域ではSGLT2阻害薬という新しいジャンルの血糖降下薬が登場、またインスリンやGLP1受容体作動薬にも新しいデバイスが開発され、医療現場ではこれらをも含めた最新のマニュアル作成が待ち望まれていました。

さらに長年地域住民から期待されてきた糖尿病センターが当院の糖尿病サポート・チーム(Asama DST)の拠り所として2017年3月ついにオープンしました。これによってAsama DSTは一層結束を固くし、当院の糖尿病チーム医療はこれまで以上に活性化されました。

そこで従来のインスリン等注射薬のデバイスの解説、スライディング・スケール法やアルゴリズム法など製剤の使用法に加え、SMBG・POCT・CGM・FGMなどの血糖測定器の使用法、さらには妊娠糖尿病に関するマニュアル、造影剤使用時の血糖降下薬についての注意点、針の廃棄をはじめ針刺し事故防止に関する取り決めなどを加えた大々的なマニュアルの改訂を行うこととなりました。

作業には糖尿病科の医師4名の他にCDEの資格を持つスタッフを中心とする看護師11名、助産師3名、薬剤師2名、管理栄養士4名、臨床検査技師2名、医療安全1名という壮大なチームが当たり、名称も「院内インスリン使用マニュアル」から「院内糖尿病サポートマニュアル」に変更しました。

病院内の糖尿病診療に関するマニュアルとしては嘗てない広範囲の領域をカバーするものとして必ずや実臨床に益するものと自負しております。また当院のみならず、同様の志を持つ全国の糖尿病チームにとっても参考にして頂けるように病院の公式HPからダウンロードできるようにして参ります。

本マニュアル作成に携わったAsama DSTの皆さんの努力と情熱に敬意を払い深く感謝します。

2018年7月吉日